

授業改善推進プラン < 理 科 >

(理) 科における令和3年度授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- 電子黒板等の活用が増え、資料提示の頻度が増え、発言などの様子から授業に意欲的な生徒が増えてきている。また実験手順の説明の効率化にもつながっている。
- 2年生は引き続き火山の部分の定着が不十分である。タブレットなどで実際の火山資料を提示するなどして、知識の定着へと結び付けたい。
- ワークなどの問題演習の学習量を増やしたことで、2年生では基礎の定着が見られ、前年度より全体的に良い結果となっている。しかし、3年生ではまだ基礎的な知識の定着が不十分のため、今後はタブレットなども活用して、知識の定着を図るとともに単元ごとの苦手分野を重点的に取り組ませていく必要がある。

(理) 科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> ○1学年：教科の正答率では目標値を5.4ポイント上回り、全体として高い水準である。内容別では生物分野で目標値を0.3～0.6ポイント下回った。 ○2学年：教科の正答率は目標値に対し、3.5ポイント上回り、基礎、活用ともに高い結果となった。内容別では火山が目標値を下回った。 ○3学年：教科の正答率は目標値に対し、0.4ポイント下回った。各分野で目標値を上回った部分と下回った部分がある。
観点別結果の分析	<ul style="list-style-type: none"> ○1学年：すべての観点で目標値、全国平均を上回った。 ○2学年：すべての観点で目標値、全国平均を上回った。特に「観察・実験の技能」は8.3ポイントと大きく上回った。 ○3学年：すべての観点で0.6～1ポイント目標値を下回った。全国平均と比べても下回っている。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- 1、2学年：タブレットや問題集を活用しながら、確認・復習を定期的に行い、基礎の定着を引き続き図る。また、実験の予想、考察なども利用しつつ活用力や表現力等も高めていく。
- 3学年：単元別の問題演習や確認テスト等の頻度を増やし、知識の定着を目指す。

(理) 科の授業改善策

- 1学年では生物、2学年では火山で正答率が低い。3学年ではどの分野も少しずつ理解の不十分な箇所がある。1、2年では導入の工夫やスモールステップを重ねた説明、またタブレットや電子黒板を利用し、視覚にも理解しやすい授業を、時間をかけて実施するようにする。
- 用語や語句に対して正確な記述ができるように、単元別の問題演習や確認テストの頻度を増やし、生徒が繰り返し学習する機会をさらに増やす。授業毎に、既習事項の確認を行い学習内容の関連性を理解させていく。